

第7章 成果目標

表 成果目標

基本方針	指標	目標値
共通	最低居住面積水準を満たさない住宅ストック♦の全世帯に占める割合	・ 現状 1.9% (平成 15 年度) ※1→目標 早期に解消※3
	誘導居住面積水準が確保された住宅ストック♦の割合	・ 現状 59.1% (平成 15 年) ※1 →目標 70% (平成 25 年) ※3
	満足度	・ 現在住んでいる住宅に関する満足度: 現状 60.9% (平成 19 年) ※2→目標 70% (平成 29 年) ※3
1 安全・安心の住まい・まちづくり	建築物の耐震化率	・ 住宅: 現状 76.0% (平成 15 年) ※1→目標 90.0% (平成 27 年) ※3 ・ 市営住宅(低層): 現状 23.7%(平成 19 年)※2→目標 100% (平成 27 年) ※3 ・ 市営住宅(中高層): 現状 100% (平成 19 年) ※2→目標 100% (平成 27 年) ※3
	ユニバーサルデザイン♦化が施された住宅ストック♦の割合	・ 共同住宅のうち、道路から各戸の玄関まで車椅子で通行可能な住宅ストックの比率: 現状 5.2% (平成 15 年) ※1→目標 15% (平成 25 年) ※3 ・ 高齢者(65歳以上の者)が居住する住宅のうち、段差の解消がされている住宅ストックの比率: 現状 15.9% (平成 15 年) ※1→目標 40% (平成 25 年) ※3
2 住宅・宅地のストックの活用と流通の促進	住宅の利活用期間	・ 滅失住宅の築年数約30年未満の住宅ストック数に占める割合: 現状 62.5% (平成 15 年) ※1→目標 45% (平成 25 年) ※3
	空き家戸数	・ 空き家の全体の住宅数に占める割合: 現状 14.1% (平成 15 年) ※1→目標 12.2% (平成 25 年) ※3
	中古住宅の購入数の全持ち家総数に占める割合	・ 持ち家総数のうち、中古住宅に対する割合: 現状 6.6% (平成 15 年) ※1→目標 12.0% (平成 25 年) ※3
3 まちなかや中山間地等の地域特性に応じた住まい・まちづくり	中央部地域(中央・東部・第1・第2・第3地区)、中央北部地域(白板・城北・安原・城東地区)、中央南部地域(田川・鎌田・松南・庄内地区)の合計人口	・ 現状 82,041 人 (平成 17 年) →目標 80,799 人 (平成 27 年)
	四賀・安曇・奈川地区の人口	・ 四賀: 現状 5,707 人 (平成 17 年) →目標 5,566 人 (平成 27 年) ・ 安曇: 現状 2,289 人 (平成 17 年) →目標 2,226 人 (平成 27 年) ・ 奈川: 現状 907 人 (平成 17 年) →目標 900 人 (平成 27 年)
4 環境と調和する住まい・まちづくり	一定の省エネルギー対策を講じた住宅ストック♦の比率	・ 全部又は一部の窓に二重サッシ又は複層ガラスの窓がある住宅: 現状 42.4% (平成 15 年) ※1→目標 最低限、現状を維持 (平成 25 年) ※3
	太陽光発電システム設置住宅数の一般世帯に占める割合	・ 現状 0.77% (平成 17 年) →目標 3.00% (平成 30 年)
5 誰もが安定した居住を確保できる住まいづくり	高齢者や障害者であること等を理由に入居を拒否しない民間賃貸住宅の登録数	・ 高齢者円滑入居賃貸住宅♦登録数: 現状 約 190 戸 (平成 21 年) ※2→目標 約 1,130 戸 (平成 31 年) ※3

現状値及び目標値の対象範囲は以下の通りとする。

※1: 旧松本市、※2: 旧松本市及び安曇・奈川・四賀・梓川地区、※3: 平成 22 年 3 月 31 日現在の松本市